

## 美濃馬場・長滝寺の歴史的文化財

美濃馬場・長滝寺には、延年(えんねん)の舞が今も行われている。長滝寺の延年(えんねん)の舞とは、毎年1月6日に郡上市白鳥町の長滝白山神社で奉納される神事芸能のことである。延年とは、中世の寺院社会で主として行われてきた遊宴芸能であるが、現在延年の舞が行われているのは、日光輪光寺と平泉毛越寺と長滝白山神社の3か所のみである。まず、日光輪光寺の延年(えんねん)の舞をご覧いただきたい。

<https://www.youtube.com/watch?v=Z17VJXTE-Nw>

このYouTubeは、日光山輪王寺の協力の下、日本映像民俗学の会の長島節五氏が撮影した神秘の秘舞曲「延年舞」である。この延年舞(えんねんのまい)は、慈覚大師 円仁が唐から将来した秘舞曲で、寺伝によれば嘉祥元年(848)大師が日光山に来山された時、伝えられたものといわれており、千年以上の歴史と伝統があります。天下泰平・国土安穩・延年長寿を希(ねが)って日光山の諸仏諸神に奉納される舞で、江戸時代からは、東照大権現の例大祭にさきがけて奉舞されるとのことある。

次に、平泉毛越寺の延年(えんねん)の舞をご覧いただきたい。

<https://www.youtube.com/watch?v=I2sZFZ5bQno>

この詳しい説明は、次のホームページをご覧いただきたい。

[http://blog.goo.ne.jp/sakura-sakura\\_1966/e/2b99134b295c3edcb1d3c207bbac32bb](http://blog.goo.ne.jp/sakura-sakura_1966/e/2b99134b295c3edcb1d3c207bbac32bb)

そのホームページでは次の通り述べられている。すなわち、

『毛越寺に伝承される延年の舞は、開山以来連綿と行われてきた常行三昧供の修法とあわせて国の重要無形民俗文化財に指定されています。』

雪の常行堂で正月二十日に行われる摩多羅神(またらじん)の祭礼を地元では俗に「二十日夜祭(はつかやさい)」と呼んでいます。

明治15年ごろから、この二十日夜祭に合わせて厄払いの行事である蘇民祭が行われるようになりました。しかし、見物客が多数押しかけ、境内が荒らされるため、蘇民祭は昭和30年ごろまでに中止となり、代わって献膳行事が行われるようになりました。

厄年の老若男女が、夜、平泉駅前に集合、たいまつの明かりを先頭に常行堂まで行進、仏前に大根や白菜などの野菜をささげ、無病息災・家内安全を祈願します。

常行堂内では、古伝の常行三昧供の修法のあと、法楽に延年の舞が奉納されます。「延年」とは「遐齡(かれい)延年」すなわち長寿を表します。遊宴歌舞は延年長寿につながるというところから、諸大寺の法会のあとに催される歌舞を総称して「延年」と言ったのです。

仏を称え寺を讃め千秋万歳を寿くのですが、曲趣は様々で、風流に仕組まれたものは漢土の故事などの問答方式に舞楽風の舞がついたものや田楽躍(おどり)など、当時の流行の諸芸を尽くして祝ったものようです。

常行堂も享保17年(1732)に再建されたもので、佛像、佛具、書籍など、宝物は後世のもので、創建当時のものは殆ど残っていないのが、形の無い延年の舞だけは、時空を超え、今も800年昔ままだに伝えられている。』・・・と。

美濃馬場・長滝寺の延年(えんねん)の舞については、今ご紹介した日光輪光寺の延年(えんねん)の舞および平泉毛越寺の延年(えんねん)の舞によって、類推していただきたい。美濃馬場・長滝寺の延年(えんねん)の舞も、昭和52年、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

美濃馬場・長滝寺には、「延年(えんねん)の舞」のほかに、国の重要文化財「木造古楽面(もくぞうこがくめん)がある。それについては、次のホームページに詳しく掲載されている。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kyoiku/bunka/bunkazai/17768/cyoukoku/mokuzoukogakumenn.html>

それをここに紹介しておきたい。

長滝白山神社に伝来する能面27面の内訳は、次のようである。

白色尉 [はくしきじょう] 3面女3面翁1面喝食 [かつしき] 1面  
延命冠者 [えんめいかじゃ] 2面若女2面尉3面黒色尉1面  
茗荷悪尉 [みょうがあくじょう] 1面飛出 [とびで] 3面獅子口1面

見 [べしみ] 2面童子1面阿古父尉 [あこふじょう] 1面

以上25面の大多数は江戸時代のものであるが、南北朝時代の制作と思われる延命冠者の佳作をはじめ、室町時代の女面、白色尉、延命冠者、茗荷悪尉などの古面がある。

また、年紀のあるものとしては翁（応安2年宋久作）、女面（文明2年）白色尉（天文11年駿河国酒惣作）、喝食（元和2年）の4面があって、地方能狂言面の研究上貴重な資料である。

なお、平成20年度に鬼面1面が、平成26年度に鬼面1面が追加指定された。



左上:白色尉 左下:延命冠者

右上:尉 右下:飛出

( <http://www.pref.gifu.lg.jp/kyoiku/bunka/bunkazai/17768/cyoukoku/mokuzoukogakumenn.html> による)

実は、美濃馬場・長滝寺には、「延年(えんねん)の舞」や「木造古楽面(もくぞうこがくめん)」の他にも、次のような国指定の重要文化財がある。 驚きだ !

- 鉄蛭巻手鉢(てつひるまきてぼこ)
- 鉄製斧 木柄付(入峯斧)
- 銅仏餉鉢(どうぶっしょうぼち)3口
- 古瀬戸黄釉瓶子 2口
- 石燈籠
- 黄地蝶梅文様繡狩衣・黄地牡丹文様繡狩衣